

令和8年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【大砂土東小学校】

学力向上
アクションマップ

①	今年度の目標と学力向上策
重点的に育成する 資質・能力	(1)学習を自分事と捉え、自分の考えをもつことができる資質・能力 →主権者意識の醸成 (2)自ら問いを立て、様々な他者と協働しながら問題を解決する資質・能力 →情報編集力の育成
↓	
実施する学力向上策 【時期・頻度】	(1)・学習内容を生活場面と結び付ける。考えや取組のよさについて価値付ける。【単元・教材で1回以上】・根拠(資料、既習等)を基に、課題について自分の考えをまとめる活動を行う。その際、個別に支援したり自己のペースで取り組んだりできる時間を設定する。【単元・教材で2回以上】 (2)・必要感や困り感、知的好奇心をもてる授業展開を工夫する。(発問等も含む)【単元・教材で2回以上】・単元・教材全体を見通し、協働的な学びを計画的に位置付け、新しい学びを得られるような展開にする。その際、教師は「なぜ」「つまり」「大事だと思うところは」等の問いかけを使って児童の考えを深める。【単元・教材の中で1回以上】

⑤	年度末評価	
学力向上策の 実施状況	評価(※)	
↓		
今年度の成果と 次年度の課題		

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

④	さいたま市学習状況調査結果の分析
特徴的な結果	
↓	
結果から考えられる 児童生徒の実態	

③中間評価を経ての取組
④調査結果を活用した授業

②	全国学力・学習状況調査結果の分析
特徴的な結果	質問紙調査では、自分のよさを知り、自分とは違う友達の考えに触れて考えることを楽しいと感じている児童が多かった。課題解決に向けて自ら取り組んでいると答える児童も多かった。国語、算数の調査の無回答率は、低い傾向にあった。 国語では、考えとそれを支える理由や事例などの関係を理解する問題や、資料を引用して自分の考えが伝わるように書き表す問題、また、文中にある情報と情報を関係づけて図に表したものを理解する問題に課題が見られた。算数では、体積の公式を使った問題、二次元の表を読み取る問題、図形を構成する要素に着目して求め方を説明する問題の正答が多く見られた。一方で、計算技能の習熟、体積の概念の理解に課題が見られた。
結果から考えられる 児童生徒の実態	国語では、自分の考えをもてる児童は多くいるが、その根拠となる資料や図、言葉などを明らかにしながら分かりやすく伝えることに課題が見られる。また、文章や言葉を手がかりにしてイメージを広げたり考えたりすることが難しい児童がいると考えられる。 算数では、問題の解決の仕方を考えたり書き表したりすることに意欲的に取り組み、図や式等に表してまとめることができるようになってきている。概念の理解や計算の習熟が十分でないところがあると考えられる。 児童は、自身の強みやよさを理解し、学習に対して「主体的に取り組んでいる」と自己を高く評価している。

③	中間評価	
学力向上策の 実施状況	評価(※)	(1)個々の取組を尊重し支援しながら、自分の考えをまとめる活動は、多くの教員が取り組んでいる。今後、根拠を明らかにしながらまとめられるようにし、よさの価値付けをできるようにしていく。 (2)協働的な学びの中で、教師は「なぜ」「つまり」「大事だと思うところは」等の問いかけを使って児童の考えを深めることができるようにしている。単元の導入等で必要感や困り感をもてるようにしている。
	B	
↓		
学力向上策の 見直し	(1)・各教科の見方・考え方を学年で共有し、考えのよさを価値付ける。【単元・教材で一つ】・根拠(既習、資料、言葉等)を明らかにして自分の考えをまとめる。その際、方法や形態、順序、内容に選択肢を設け、自己決定できるようにする。また、概念の定着に向けて、単元の中で使う場面を設定する。【単元・教材で1回以上】 (2)・単元の導入で必要感や困り感、知的好奇心をもてる工夫をする。【単元で1回】・各教科の見方・考え方を働かせ、深い学びになるような話し合いができるように、教師は深める発問「なぜ」「～だとしたら」等や、俯瞰して考えさせる発問「つまり」「大事なところは」等を用い、児童が言語化できるようにしていく。【単元・教材で1回以上行う】	

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

教育研究所